



図書館ボランティアだより

第57号 令和5年1月1日

発行 阪南市図書館フレンズ広報部会



図書館フレンズ 1月の活動予定

曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
日	1/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
配架					○	○	○	○	○			○	○	○
書庫入れ						○							○	
図書整備	休館日	休館日	休館日	休館日	資料整理日	午前	○		○		休館日	休館日	○	
						午後	○		○					
生け花緑化							○							○
館内装飾														
広報								○						
ブックスタート					○									
おはなしでてこい														○
はじまり紙芝居								○						
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
配架	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○
書庫入れ			○			○				○			○	
図書整備	休館日	休館日	休館日	休館日	休館日	午前		○		○	休館日	休館日	○	
						午後		○		○				
印押し					○									
生け花緑化							○							○
館内装飾														
広報	○							○						
ブックスタート														
おはなしでてこい							○							
はじまり紙芝居	○							○						
	29	30	31	2/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
配架	○	○	○		○	○	○	○	○					○
書庫入れ			○		書庫歳点				蔵書点検	蔵書点検	休館日	蔵書点検	蔵書点検	
図書整備	休館日	休館日	休館日	休館日	休館日	午前		○						
						午後		○						
生け花緑化														○
館内装飾			○											
広報	○							○						
ブックスタート					○									
おはなしでてこい							○							
はじまり紙芝居	○							○						

紙芝居上演までの準備

令和4年12月から、阪南市立図書館での紙芝居の上演が毎週日曜日となりました。紙芝居が上演されるまで、いろいろと準備があります。

今回は、上演までの準備の様子を、紙芝居部会の皆さんにお聞きしました。
(編集：広報部会)



↑ 自宅や公民館での練習。



↑ 図書館内の紙芝居コーナーでの打ち合わせ。

中山千代美

12月4日は、坪田、中山が担当でした。数日前に二人で紙芝居を持ち寄り、打ち合わせ。対象年齢や内容(物語、対話型、クイズなど)、時間のバランスを考えて、4~5作品選びました。手遊びも用意。それから各自で実演練習。

そして、本番直前が勝負です。参加者の年齢を見て作品を3つにしぼり、順番を決定しました。実演の先に見えたたくさんの笑顔。だからやめられません。これからも技を磨きつつ、楽しく続けていきたいです。

紙芝居の上演は

毎週日曜日

午後2時~2時20分

阪南市立図書館内

紙芝居コーナーで

橋本一郎

- (1) 連絡し合って、演目(当日演じる紙芝居)や手遊びや手品などの役割を分担します。二人の内、どちらが先に演じるか、手遊びや手品をどちらがするかなどを決めます。これで、当日のプログラムが決まります。演目は、幼児用と小学生用の2点を決めておきます。

- (2) 各自で練習する
なかなか、集まることができない昨今です。各自で、

- ① 発声練習をします。
「アメンボ赤いな あいうえお」など、小学校1年生の国語の教科書に出ている「ひらがな」の練習表を大きな声で読む練習をします。

これは、高齢者にとっては、「誤嚥(まちがって、食べ物や飲み物を気管に飲み込んでしまう事)」を防ぐ練習にもなります。

- ② 上演する紙芝居を何度も読み込みます。
紙芝居の上演は、ただ読むだけでなく「演じる」ことも必要になります。「演じる」ためには、何度も読み、「覚えてしまうほど」すらすらと読めるまで練習します。新しい言葉や事柄を学べます。

- ③ 舞台を使って練習します。
自分が作った舞台でも練習します。それは、記憶力の保持に役立ちます。

- (3) 当日、上演前に練習し相互に批評し合います。

- (4) 本番前に、観客の子どもと話し、その上で上演者とスタッフで演目を決めます。

本番前に練習
します。→

「はじまり はじまり」紙芝居」の記録

実施日	2022年12月11日(日)
実施時間	14:00 ~ 14:20
担当者	橋本一郎他 名
参加人数	子ども 人 大人 人
参加した子どもの年齢	~ 歳

演目	演者
(1) あいさつと手品 ()分	阿野芳夫・橋本一郎
手品「消えるヘンカチ」 ()分	阿野芳夫
(2) 紙芝居「いなかの白鳥」 ()分	(文:西野綾子、脚:阿野ヒサ子、かみありづき)
紙芝居「おぼけものでら」 ()分	阿野芳夫(文:水原孝三)
(3) 紙芝居「おすわりやす いすどっせ」 ()分	橋本一郎(文:橋本 豊、橋本一郎)
紙芝居「五色の橋」 ()分	橋本一郎(文・脚:阿野 豊、橋本一郎)
(4) おしまいのあいさつ ()分	阿野芳夫・橋本一郎

感想・反省

図書館記入欄

↑ プログラムを決めます。



↑ 発声練習をします。



↑ 絵を見ながら何度も読みます。



マレーシアと日本を結ぶ（1）

クアンプランの『なずな文庫』って、どんなところ？

図書館フレンズ紙芝居部会 谷本千種



↑ 子どもたちと絵本を読む



↑ 子どもたちとの時間

マレーシアの東海岸にあるクアンプランは、パハン州の州都です。

『なずな文庫』は、2005年7月に開庫しました。毎週土曜日の朝10時半から12時迄私が自宅で、絵本を読んだり、手遊びをしたり、本の貸し出しをしたり……。

『何故、そんな外国の片田舎で文庫を？』と、疑問に思われるでしょう。

クアンプランは、首都クアラルンプールから、約300km離れ、日本人学校も無く、日本語に触れる機会は限られています。

しかし、少数ながらも、日本企業の赴任家族や、現地の人と結婚した日本人の方々が在住されています。

2004年、私の夫が、「マレーシア・マイ・セカンドホーム・プログラムビザ」を取得しクアンプランで長期滞在を始めました。

そこに住む日本人との、ひよんな出会いから、『文庫開設』の運びとなりました。

一時帰国後、私の古巣である『つくし文庫』（阪南市箱作に存続）の協力を得て、日本から絵本を運びました。

たった数十冊でスタートしたのですが、日本の文庫仲間や、現地の日本人の支持を受け、17年後には、日本語の図書は数百冊となりました。

『なずな文庫』は、日本語を勉強する生徒達や、日本人とのコミュニティの場となり、JICA（ジャイカ）のボランティア隊員から『ここは、マレーシアのオアシスですね』と、呼ばれるようになりました。

ところが、2020年の暮明けとほぼ同じ頃、世界を揺るがす『コロナ』が、マレーシアにもやって来たのでした。

さて、この続きは、次号で！

